



さぬき市民病院産婦人科医師
香川県がん対策推進協議会子宮がん部会長
香川県産婦人科医会会長
樋口 和彦先生

子宮頸がん編

女性の心身のバイオリズムをつくり、世の中に生まれ出る前の子どもを育てるのが子宮。子宮がんの知識を持ち、がんの兆しを少しでも早く見つけることは、強く美しく生きる女性の新常識です。

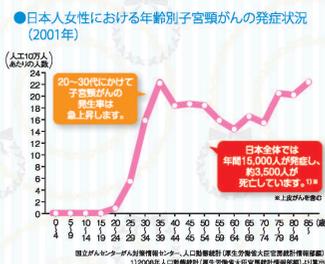


子宮頸がん 基礎知識

子宮頸がんは感染からがん化に長期間ヒトパピローマウイルス(以下HPV)は、皮膚や粘膜に感染する、300種類以上もあるごくありふれたウイルスです。その中で子宮頸がんの原因となるのは15種類ほど。感染ルートは、主にセックスで、性体験のある8割以上の女性が一生のうち1度は感染すると言われています。感染後1年以内、70%、2年以内に約90%が、特に症状もありません。免疫力によって排除されます。ところが、まれに感染が継続することがあり、ウイルスが長く住み着くことにより、感染した細胞に変化が起こってと異形成と言われ

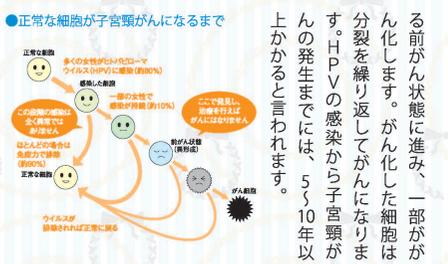
1 発症のピークは30代後半 子宮頸がん 基礎知識

子宮がんには「子宮頸がん」と「子宮体がん」があり、今後は、20〜30歳代の若い年代に急増している子宮頸がんの話をしませう。子宮頸がんは子宮の入口付近にできるがんで、発症のピークは30代後半。初期症状はほとんどありません。しかし、原因のほとんどがヒトパピローマウイルス(HPV)の感染によるため「唯一予防が可能ながん」と言われています。



子宮頸がんはウイルスに感染し、かかると発症年齢が20〜30代へと若いのが特徴です。

Voice HPVががんになるには長い時間がかかるので、その間に検診を受け異常を発見すれば、早期に治療できます。



3 初期段階の子宮頸がん 基礎知識

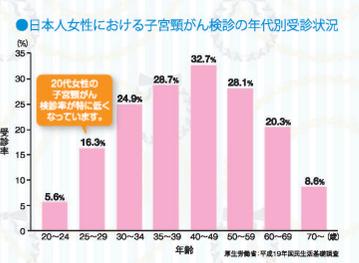
子宮頸がんの初期は自覚症状がなく、進行するにつれ、性器からの出血、おりもの変化などの症状が出てきます。けれど、手術できないほど進行した人でも、自覚症状がない場合も多くみられます。異形成の状態で見つければ、子宮の

Voice がんが進行すると、子宮を摘出して妊娠できなくなるほかに、転移が起こり、命を失う可能性も。早期の発見、治療を！

入口の一部を切除するだけで子宮を残すことができ、転移の可能性もほとんどありません。がんになっても初期であれば、子宮を摘出しない治療ができ、妊娠も可能です。けれど、進行してから発見されると、子宮やその周辺の臓器を取ることになり、手術後も排尿障害やリンパ浮腫などの後遺症や、転移の不安にも悩まされます。早く見つけて早く治療を始めるほど、治療の選択肢が広く、治療後の不安も少なくて済みます。

4 ワクチン接種 定期検診で予防できる 子宮頸がん 基礎知識

HPVの感染を防ぐワクチンによる子宮頸がん予防接種が、平成25年4月から定期接種化されました。小学6年生から高校1年生の年齢の女性が対象で、望ましい接種年齢は中学1年生とされています。HPVはセックスで感染す



Voice ワクチン接種は有効ですが、万能ではありません。定期検診も合わせ、確実な予防を目指しましょう。

るので、セックス経験前の10代での接種が効果的なのです。また、成人女性(おおむね45歳まで)の再感染も防ぐことができます。しかし、現在のワクチンは、約70%の子宮頸がんを引き起こすとされている2種のウイルスを感染を防ぐのが目的で、すべての予防はできません。また、接種前に発症している子宮頸がんや異形成の進行は、遅らせることも治すこともできません。予防しきれなかった病変を見逃さないために、ワクチン接種後も定期的な検診が必要です。

先生から、さらにアドバイス!

早期発見のために、定期検診を

香川県では、毎年30,000〜40,000人の方が市町の実施する子宮頸がん検診を受けています。受診者のうちがんが発見されるのは、30人前後です。その中でも、早期がんとされるものが70〜80%であり、子宮の一部を切除するような身体の負担の少ない治療を受けることで健康を回復しています。早期に発見できれば、怖がる必要のない病気ですから、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。



1 問診
問診では、最終月経や生理痛の有無など、婦人科で聞かれる一般的な質問に答えます。

2 内診の準備
内診台のある個室に入り、下着をとり、看護師の指示に従い、内診台に腰掛け、脚にタオルなどをかけます。適切に座ったことを確認後、自動的に内診台が動き、脚が開きます。施設によっては、検査する側とされる側の間にカーテンがある、などの配慮がされています。

3 内診
医師が内診をします。施設によっては、超音波器具を膣に挿入し、超音波検査をします。子宮や卵巣の状態をモニターで見ることが出来る施設もあります。

4 細胞を採取
クスコを膣に挿入して膣壁を広げ、専用の検査ブラシで細胞を採取します。痛い場合は、採取道具の変更などができるので、医師に伝えましょう。

5 検査終了
検査終了の音がかり、内診台が自動的に動きます。降りる位置まで戻ったら、衣服を整えます。

6 結果判明
採取した細胞を顕微鏡で検査。結果は、通常1〜3週間後に判明します。